

移兵器

班給宅地

て、おほやけをとこ女づかひたてさせ給ひ。○中みかどこの京にうつらしめ給ひては、父ちかく  
ふり奉りて、大原野と申<sup>略</sup>中なをもちかくとて、またふりたてまつりて、吉田と申ておはします  
めり、この吉田の明神は、山かげの中納言のふりたて奉り給へるぞかし。

〔續日本紀十聖武〕天平十三年閏三月己未遣使運平城宮兵器於甕原宮。

〔續日本紀十五聖武〕天平十五年十二月己丑始運平城器仗收置於恭仁宮。十六年二月甲寅運恭仁宮  
高御座并大楯於難波宮又遣使取水路運漕兵庫器仗。

〔續日本紀十六聖武〕天平十七年十二月戊戌運恭仁宮兵器於平城。

〔日本書紀二十九天武〕十二年十二月庚午詔曰、凡都城宮室非一處必造兩參故先欲都難波是以百寮者  
各往之請家地。

〔續日本紀十聖武〕天平六年九月辛未班給難波京宅地三位已上一町以下五位以上半町以下六位以  
下四分一町之一以下。

〔續日本紀十四聖武〕天平十三年閏三月乙丑詔留守從三位大養德國守大野朝臣東人兵部卿正四位下  
藤原朝臣豐成等曰、自今以後五位以上不得任意住於平城如有事故應須退歸被賜官符然後聽之。  
其見在平城者限今日內悉皆催發自餘散在他所者亦宜急追九月己未遣木工頭正四位下智努  
王民部卿從四位下藤原朝臣仲麻呂散位外從五位下高岳連河内主稅頭外從五位下文忌寸黒麻  
呂四人班給京都百姓宅地從賀世山西道以東爲左京以西爲右京。

〔續日本紀十五聖武〕天平十六年閏正月癸酉更仰京職令諸寺百姓皆作舍宅。

〔續日本紀二十三淳仁〕天平寶字五年正月丁未使衛門督正五位上粟田朝臣奈勢麻呂禮部少輔從五位  
下藤原朝臣田麻呂等六位已下官七人於保良京班給諸司史生已上宅地。

〔日本紀略桓武〕延曆十二年九月戊寅遣菅野眞道藤原葛野麿等班給新京宅地。